

塩竈市上下水道事業経営審議会 令和7年度第2回会議 議事録

1. 日 時 令和8年3月17日（火） 14:30～16:20
2. 場 所 塩竈市魚市場中央棟大会議室
3. 出席委員 大村達夫会長、佐々木康弘委員、佐々木健志委員、東賢一委員、佐々木啓委員、鈴木将委員（8名中6名出席）
4. 出席職員 鈴木上下水道部長、並木次長兼業務課長、熊谷上水道課長、佐藤下水道課長、樋渡副参事ほか担当係長及び事務局職員
5. 傍 聴 者 7名
6. 会議次第
 1. 開 会
 2. 会長あいさつ
 3. 議 事
 - (1) 塩竈市の給水・下水処理系統について
 - (2) 令和8年度水道事業会計予算について
 - (3) 塩竈市水道管路更新計画について
 - (4) 令和8年度下水道事業会計予算について
 - (5) ウォーターPPPの導入可能性調査の状況について
 - (6) その他
 4. その他
 5. 閉 会
7. 配布資料 塩竈市の給水・下水処理系統について ほか別添のとおり
8. 会議内容
 - ・大村会長のあいさつの後、会長が議長となり、議事が進められた。
 - ・各議題について、資料に基づき関係職員から説明後、質疑応答等が行われた。
9. 主な意見 **【水道事業】**
 - ・料金収入が減少する一方で、管路等の施設更新需要は年々増加している。更新を計画的に実施していくためにも、将来の料金改定を見据え、厳しい状況にあることを市民に的確に示していく必要がある。
 - ・梅の宮浄水場の老朽化対策や修繕について、物価高の影響により、今後ますます費用が嵩む懸念がある。年次計画の中で、しっかりとした取り組みを進める必要がある。
 - ・経年化率について、県平均よりも高い状況が続いている。今年度改定された宮城県水道ビジョンでは、新たに耐震化率の目標数値が設定され、中長期的な財政収支と更新需要に基づくアセットマネジメント計画の目標も掲げられている。将来的な水需要も見据え、更新需要だけでなく財政的見通しを含めた包括的な更新計画の策定にも取り組むべきである。

【下水道事業】

- ・下水の処理水について、愛知県や静岡県では、処理方法を変更し、窒素やリンを海に供給することで水産資源の増加に取り組む事例がある。そのような環境負荷削減型の考え方が今後重要となるのではないかと。
- ・ウォーターPPPの導入については、国の補助の前提となっており、下水道事業を将来的に安定的に維持するため、非常に重要な取組となる。現在は包括的民間委託の「レベル2.5」の段階にあるが、施設管理と更新を一体的に行う「レベル3.5」へのステップアップを目指し、継続的な検討を進める必要がある。

9. 議事録（要旨）

(1) 開会

事務局から塩竈市上下水道事業経営審議会設置条例第6条第2項に規定する会議の成立要件を満たしていることが報告された。（委員8名中6名出席）

(2) 会長あいさつ

皆さんこんにちは。委員の皆様にはお忙しい中ご参加いただき、御礼申し上げます。本日は第2回目の審議会ということで、議論をより深掘りしていきたいと考えております。皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。何卒よろしく願いいたします。

(3) 議事

塩竈市上下水道事業経営審議会設置条例第6条第1項の規定により大村会長が議長となり、議事が進められた。

○大村会長

円滑な審議ができますよう皆様のご協力をお願いいたします。それでは次第の議題の第一番目、塩竈市の給水・下水処理系統について事務局から説明をお願いします。

○樋渡副参事

（資料1「塩竈市の給水・下水処理系統について」に基づき、水道の給水系統について説明。）

○佐藤下水道課長

（資料1「塩竈市の給水・下水処理系統について」に基づき、下水処理系統について説明。）

○大村会長

ご説明ありがとうございました。
今お聞きしていただいたように、水道の給水処理系統は梅の宮浄水場を持っておられ

て、そして一部は南部山浄水場、宮城県の水道を給水されている状況のようです。そして、下水道の方では施設は無いですが、管路が主体となっていて雨水管と污水管、そして汚水を集めた後の水は仙塩浄化センターに圧送して処理を行っているということでした。今の説明についてご意見いただければと思います。

○佐々木康弘委員

1 回目の時にもお話したと思いますが、水道の管路延長が長いというのが塩竈市の状況なのかなと拝見いたしました

○大村会長

特に南部山浄水場から70kmぐらいあるので、残留塩素など気になるというところがありますけど、今後この系統をどう運営していくかと、多くの課題があるような気がします。そういう意味でも注目はしていかなければいけないなと思っています。ご説明いただいたことを今後委員の方々には頭の中に入れていただき、またご意見を賜ればと思います。続きまして令和8年度水道事業会計予算についてということで事務局から説明をいただきますが、8年度予算はもう決まっています中身は変えようがないですけれども予算についてご質問等、疑問な点などありましたら今後の予算等に反映していこうということになると思いますので、積極的なご意見をいただくということで、よろしく願いいたします。それではご説明をお願いします

○並木次長兼業務課長

(資料2「令和8年度水道事業会計予算について」に基づいて説明。)

○大村会長

限られた資料で盛り沢山の説明をいただいたので完全に理解するのはなかなか難しいかもしれませんが、お気づきの点があればご意見を賜りたいと思います。

私からですが、水道事業はこれまで水道料金でずっと賄ってきているところがあります。これがだんだん減っていくということになると、今言われたような計画が実際にできるかが課題になってきます。将来の料金改定を見据えているのなら、古くなった施設を改善していくという事もありますので、少し早めに水道は厳しい状況にあるという事を市民に示し、ご了解いただくことも必要だと思います。ぜひ検討していただきたいと思います。委員の方々から何かございませんでしょうか。

○鈴木委員

仙塩地区管工事業協同組合理事の鈴木と申します。令和7年度予算と8年度予算の収入と支出とご提示されておりますが、市も運営するに当たって色々とコストがかかる中で、昨今のガソリン価格高騰などある中で収入が同じと言う事は料金も同じで計算されているということでしょうか？水道は生きていく中で必要なものであるのに、あるのが当たり前という考えの方が結構いまして、私達も修繕等で訪問した際に、

材料費や人件費の高騰を踏まえて見積もりを出すと「高い」と言われることがあります。予算でも、料金を上げれば収入も上がりますし、これだけ物価高の中で利用者が納得されるような形で提示されたら良いと思います。それに伴って私達も修繕に行った時に「これぐらい上がっているのだよ」ということを提示できればと思います。

○大村会長

事務局の方から今のご意見に対して、ご説明をお願いします。

○並木次長兼業務課長

まず水道の予算上で水道料金の設定額としては、令和7年も8年も同額で同じ基準で水道料金を考えています。同じ単価の設定を元に給水状況を確認しながら予算として積算をしているという状況です。事業者として節約できる部分はしっかり節約をしながら、どうしても必要なもの、管路の維持管理や古い管の更新などに必要なものには、きちんと市民の皆さまにもお伝えしなければならないですし、今までお伝えしきれていなかったという反省もごございます。そういったことで、水道独自の広報誌などを積極的に活用しながら、多賀城市を含む給水エリアの方々へ今後についての分かりやすい説明を丁寧に行き続けていかなければならないと実感しております。

○大村会長

今、鈴木委員が言われた事は、給水装置などの修繕をする際に、資材費の値上げなど、様々な状況により高騰することもあるので、水道事業だけではなく水道に関わる人たちがきちんと水道事業を支える事で継続できるような体制を考えることも必要であるということだと思いますので、このようなご意見も頭に入れておいていただければと思います。

○並木次長兼業務課長

失礼しました。修繕等の単価は最新のもので計上しておりますが、その後も上がり続けているので、また発注の段階でも考えなければならない要素が多いと感じております。

○大村会長

それから、ちょっと図を見て思ったのですが、6ページ目のスライドでブルーの剰余金は20億ぐらいずっとありますが、実際にはその分だけどんどん積み上がっているのではなくて、全部トータルとしてこれだけ残っているということですね。それから、これを見て「20億の剰余金があるのなら水道料金を上げなくても良いのではないか」と議論をする人も出そうな感じを受けます。ですから、その辺の見せ方については、工夫された方が良いかもしれないですね。

○並木次長兼業務課長

はい、ありがとうございます。令和6年度までの部分でこのグラフを出しておりますので今後の事業展開によってどのようにこれが推移して、下がるのか上がるのかを委員や市民の皆さまにも提示できるようにしたいと思います。

○佐々木健志委員

県水道経営課の佐々木でございます。先ほどもお話が出ておりました利益剰余金の話ですが、塩竈市の中で目標額の設定といいますか何となく20億ぐらいだったのかもしれないですけど、何をする、どれぐらいの更新投資をするためにどれぐらい貯めておきたいというような目標はあったのでしょうか？

○並木次長兼業務課長

通常ベースであれば今の剰余金で十分だと思っておりますが、今後は梅の宮浄水場の老朽化対策、そちらを行う上で数百億円の起債を打たなければいけない状況が出てまいります。そちらがまだ確定していませんので何とも言えませんが、その事業を行う場合には今後40年なりの間でそのお金を返済するというのも出てきますので、そうなった場合にこの先10年か15年ぐらいの間の中でこちらをずっと上積みしていかななくてはなりません。60億とかそういう額で上積みが必要なのではないかとこのところが出ています。事業費を精査している段階ですので、まだこれが20億で済むのか40億必要なのかというのは今後整理していく中で目標を新たに設定し、公表していかなければいけないのだろうと考えております。

○大村会長

どうもありがとう。佐々木委員よろしいでしょうか。他に何かご意見は。

○佐々木健志委員

先ほど説明を受けた時に梅の宮浄水場はいつになるか分からないけど修繕しなければならないということでしたが、修繕や建築費用というものが皆様ご存知の通り物価高で年々上がっている状態です。ですから修繕しなければならないのであれば修繕時期を決めて、必要なお金の計算をしておかないと、先延ばしはどんどん費用が嵩んで難しくなるという懸念があります。

○並木次長兼業務課長

梅の宮浄水場の喫緊の課題というのがろ過池の洗浄方式の部分になると考えておりますが、8年度には着手して対策を施したいと考えています。そのほかにも小さな修繕というのは必ず出てきますけれども、ろ過池以外の配水池などについても早急に今後の施設の管理計画を策定した上で、年次計画の中で取り組みながら、また同時に施設全体のミニマム化など、いろいろと対策について検討しているところでございます。

。

○大村会長

現在修理をしなければならない箇所は、すぐその年の予算で対応していくことになると思いますが、今言われている2年後とか3年後に必要となることについても、なるべく早く対応した予算編成なりが大事ではないかということだと思います。

それでは令和8年度水道事業会計予算についてのご報告については、色々なご意見を参考にして来年度の予算に反映していただければと思います。本当に必要なところには目を行き届いてきちんとした計画のもとに予算編成をされているということは良く理解できましたので、今年度はこの予算を有効に活用して素晴らしい水道事業にさせていただければと思います。私の感想ですがよろしくお願いします。

それでは、次の議題の塩竈市水道管路更新計画について事務局から説明願います。

○渡辺課長補佐

(資料3「塩竈市水道管路更新計画」に基づいて説明。)

○大村会長

ありがとうございました。水道の管路更新計画ということですが、補助というお金は国交省の上下一体化したことにより、このような補助事業が出てきたのですか。

○渡辺課長補佐

令和6年に発生した能登半島地震の後に国の方から上下水道の耐震化計画ということで、耐震化を進めていくような計画をまとめさせていただきました。そちらがある意味上位の計画という形になろうかと思うのですけれども、それをまとめた後にその耐震化計画を基にした中の一部はこういったことで水道の耐震化計画ということで出させていただいているというような形でご理解いただいております。

○大村会長

令和8年度から令和17年度までの管路更新計画が3km程度ということですが、耐震化率から見ると塩竈市は29%位ということで、全国値が36.5%です。この3kmを加えると耐震化率はどのくらい上がるのでしょうか。

○熊谷上水道課長

対象延長330kmあるうちの3kmになりますので、1%というところかと思えます。有事の際に被害を最小限に抑えるため、塩竈市ではそのうちの48.2kmを重要路線として選定し、平成17年度から補助事業を活用しながら取り組んでいるところです。全体の耐震化を上げていこうということよりも、重要路線の耐震化を100%に近づけていくという計画のもと整備を進めています。

○大村会長

令和8年度から令和17年度までの更新予定が3km位では、全国レベルまではいかないということですが、そのうちの重要路線48.2kmについて、耐震化をこれから進めていくための計画がしっかり入っているということで理解してよいですね。

○佐々木健志委員

企業局の佐々木でございます。県でも塩竈市と同じように管路更新計画を立てて老朽化対策や耐震化を図っているところですが、お伺いしたかったのは、重要路線の耐震化率が現状で64%ということですが、今回の管路更新計画を含めた最終年の令和17年になるとこれが何%になるのか、目標としては終わりになると思いますが、その目標数値を教えてくださいたいと思います。また、先ほど大村会長からもお話あったとおり、経営状況から考えるとなかなか難しいと思いますが、実際それ以外の老朽管や非耐震管についての投資計画はどのように考えているのでしょうか？

○熊谷上水道課長

今回の計画の令和17年の目標値、想定値は、64%から72.4%まで10年間で上げていこうというものです。管路更新の考え方については、塩竈市の場合は重要路線に対して力を入れていくという形としています。今回の見直しで一本化した従来の計画も3億円ベースで整備していますが、これまではそのうちの約1億円が単費という形での計画でありました。今回の国の補助要件の見直しもあり、約9割が補助で、残り1割が単費ということで財源も大きく見直しをし、国からの支援をできるだけ受けて整備していこうという考え方が第一にあります。また、第二としては最近の国の動きとして、40年を経過したら入れ替えていこうという考えも変わってきています。鑄鉄管の埋設の土の状況等や漏水の状況等も見極めながら更新をしていきたいと思いますというふうな方針になってきています。本市でも40年経過したら単純に入れ替えるという計画ではなくて、実際に今の管の状況を見据えながら更新していこうという形です。現在新しく入れている耐震継ぎ手のあるGX管は、80年から100年は更新を必要としないというような管でありますので、今回整備投資している管についても長期的に経費がかからないような更新計画を考えている状況です。

○大村会長

どうもありがとうございました。他にご意見がありましたらお願いします。

○佐々木健志委員

令和17年度までの事業計画の中で、資料1の給水系統イメージの中の塩竈市の単独導水管が22kmということですが、それも事業計画の中に含まれているのか、それを施工することで耐震化率が大きく上がるのかについて教えてください。2点目として、補助事業について、口径600mmなどの大口径管は制作にも時間がかかったり、色々と調査してから図面を書いて施工するまでも時間を要すると思います。

議会で予算審議されてから発注業務を行って受注業務および工事の完了までを単年度で行うには結構な時間を要すると思いますが、繰越事業も含めてのその補助事業は可能なのかということをお教えください。

○熊谷上水道課長

今回の耐震化計画については、導水管については別計画となっていますのでこちらの2.2kmは含まれておりません。2点目の補助を利用した部分での単年度かというところですが、現在は極力単年の中で工事を終わらせたいと考えていますが、最近の国の予算の動き等を見ると、当初予算ではなかなか予算がつけられなくて、年末ぐらいの補正予算で大きく国の方でお声がかかるというような状況もございますので今までは単年度決算という形で見据えてきましたが、これからは有利な財源を活用していくためには、場合によっては繰越等も含めて検討しなければならないと思っております。また、大事業になりますと当然単年度では終わらないのでそちらについては繰越も含めた形で検討が必要と考えております。

○大村会長

よろしいでしょうか？はい。ありがとうございます。他にご意見どうぞ。

○佐々木康弘委員

都市環境課の佐々木でございます。資料3の2ページで経年化率が40%ということで全国値が23%だと思っておりますが、県の平均も27%なので、だいぶ塩竈市の経年化率が高い状況だと理解しております。それで耐震化を図りながら管路更新も行っていくということだと思っておりますけれども、今年度宮城県の水道ビジョンという10年間の計画を改定いたしましたして、10年後の目標設定として令和17年度の目標を定めております。安全・強靱・持続という三つの基本目標を掲げて、その中に今回新たに耐震化率の目標数値を設定いたしました。国の方も国土強靱化計画の関係で全国的な数値目標を初めて掲げられたということもあり、設定しておりますので、まずその耐震化を進めるというような点では予算の制限はあると思っておりますけれども非常に重要な取り組みだと思っておりますので、頑張ってお進めいただきたいと思っております。また、経年化率、管路更新の関係でも、同じように水道ビジョンを目標にアセットマネジメント計画の目標も掲げておりまして、アセットマネジメントというのは中長期的な財政収支とか更新授与に基づいて計画を定めて先ほどからお話あったように、施設更新を計画的に実施するというような計画になりますけれども、塩竈市については私どもで把握している範囲ですと、タイプ2Cと理解しております。これは、更新需要が簡略型のタイプで、財政収支見通しが簡易な財政シミュレーションで作られている計画と理解しておりますが、先ほどからお話もあるようにこれから人口減少社会になりますので今後の水需要を見通した計画、今県内全域的には3Cがほぼ多くの市町村で定められていて、さらに将来的な水需要を見据えて更新需要以外の財政的な見通しも含めた4Dに引き上げていこうということも目標に掲げておりますので、是非そういう全体の

更新計画というような策定にも取り組んでいただければと思います。

○熊谷上水道課長

アセットマネジメントにつきましては、本市でも簡略型のものを持っていますが、具体的な水需要を想定した目標を立てなければならないということで職場でもこの間勉強会を開いております。令和8年度に補助要求させていただいて、9年度から補助金を一部取り入れるような形で施設の再編計画と併せてアセットマネジメントの計画も2年から3年かけて行っていく必要があると思っております。

○大村会長

最後5番目の議題の中で、ウォーターPPPの導入可能性を検討されているようなのでその辺のところのアセットマネジメントとか管路の更新もきちんと協議しなければいけないという空気があります。今佐々木康弘委員が言われたようなビジョンの中身を知っていただけると良いと思いますので、よろしく申し上げます。続きまして令和8年度下水道事業会計予算について説明をお願いします。

○佐藤下水道課長

(資料「令和8年度下水道事業会計予算について」に基づき説明。)

○大村会長

令和8年度の下水道事業計画事業会計予算について説明していただきましたが、ご意見はございませんでしょうか。今、原油が高くなっていて、動力費が気になるところですが、どのような対応をされているのでしょうか。

○佐藤下水道課長

下水道関連の動力費として、まず電気については、令和3年と比べて1.5倍になっております。また、大型のポンプでは重油を使いますが、燃料の上昇に伴う費用増が出る可能性があります。ただし、基本的には大雨が降った際に雨水ポンプ場の大型ポンプを回すようになりますので、通常は、電気により運転している状況です。

○大村会長

天気が悪くて予算を超過した場合には予備費等で対応するのですか？

○佐藤下水道課長

今のところはまだ影響は出ていないと考えております。

○大村会長

対応は必要となるということですね。何かご意見はございませんか。

○東委員

電気料について話ができましたので、関連して、愛知では処理方法を変えて栄養塩を含んだ処理水を海に流すような話を前回もお話しました。昨年静岡でもその取組を行ったようで、海藻や魚の生育に必要な栄養塩の供給を増やすために下水処理に含まれるアンモニアの除去率を93%から85%に抑えたそうで、年間供給量を50tから90tに引き上げて処理にかかる必要な電気代も年間で約500万ほど削減できるといような内容の記事が載っていました。生態系に関わる栄養塩を下水処理で流すことにより、水産物の水揚げや生産が増える事によって、水道の使用水量も増えることでもあります。それにより下水の使用量も増えると思いますので、相乗効果で水道や下水道収入も上がるのではないのかと思います。

○佐藤下水道課長

下水道については、仙塩広域下水道で広域処理をしており、水質管理についても、県にお願いしていて塩竈市では行っていないという状況でございます。

○大村会長

東委員が言われたように窒素やリンを海に供給することにより、海苔や海藻類などの水産資源の増加に繋げようとする取組を有明海や瀬戸内海で行われています。

水質悪化を抑えようということ、窒素やリンを取って水質悪化を抑える取組を推進してきたわけですが、あまりにも水が綺麗になりすぎて水産資源がどんどん低下してしまっただけということや、その処理のためにもすごいエネルギーが必要となるという問題もあります。海の海洋資源が保たれるような状況の排水を出すということは省エネ型の処理に繋がるので、東委員が言われたような考え方を何も塩竈市だけではなく、仙塩流域下水道の方にアドバイスしても良いと思いますので、頭の中に入れていただければと思います。他にございませんか。

○佐々木啓委員

社の都信用金庫でございます。令和8年度の下水道会計予算のとおりに進んだ場合の内部留保金がどのような着地を見込んでいるのか教えていただきたいと思っております。

○佐藤下水道課長

起債の償還がほとんどということで、その利益が出た分は全て減債積立金という形で目的を持った形で積んでいくということで、使わないというのではなくて使う目的を持った形で決算しているというような状況でございます。

○佐々木啓委員

おそらく令和6年度のときは9億円ぐらいの内部留保があったと思いますが、大体横ばいというイメージでよろしいでしょうか。

○佐藤下水道課長

資金繰りについては平準化起債の借り入れが増えますので、若干増えるという部分は想定されますが、返すというための平準化起債でありますので一時的なものとして捉えている状況でございます。

○大村会長

よろしいでしょうか？ご意見がなければ、一応この議題は終了させていただきたいと思っております。それでは最後の議題になりますが、ウォーターPPPの導入可能性調査状況についてご説明ください。

○佐藤下水道課長

(資料「ウォーターPPPの導入可能性調査の状況について」に基づき説明。)

○大村会長

ウォーターPPPの調査について説明していただきましたが、この課題は、待ったなしの事だと思っております。やはり将来の下水道事業の持続性と人材というようなものを考えてみると、そういうものがきちんと担保できない状況に陥る可能性が非常に高いですし、塩竈市はもちろん他の方も絶対に避けて通れない課題になってきます。ですからこの議論がスタートしたということは非常に有意義だと思っております。国の補助金のこともありますので、この機会にウォーターPPPの検討をされる事は非常に良い事だと思っておりますが、委員の方々、ご意見等がアドバイスありますか。

○佐々木健志委員

企業局では、みやぎ型管理運営方式ということで進めさせていただいておりますが、今回の調査で進められている業務の範囲はどこまでとなるのでしょうか？資料1に記載があるもの全てということなのかこれにプラスしてCMの分や何か外れているのか教えてください。

○佐藤下水道課長

こちらはフルスペックのもので検討しております。今のところは何かを外すというよりは全て含めながら導入効果を検討している状況でございます。特に塩竈市の場合、浦戸諸島の漁業集落を抱えておりますので、そちらも含めた形で検討を進めている状況でございます。

○佐々木健志委員

VFMというのは目標をとれぐらいで考えているのでしょうか。

○佐藤下水道課長

VFMについては、今回は参考までに行っております。と言いますのも、す

でに包括的民間委託を導入して人件費や人員削減をしておりますので、参考的に行ったという状況です。

○佐々木健志委員

業務上のスケールメリットの分の削減効果だけを確保するよということですね。なるほど、わかりました。

○大村会長

利府町では、水道も含めて下水道と両方やられていますよね。塩竈市では下水道だけで進めるということを考えているということでしょうか。

○佐藤下水道課長

下水道の方が先行して進めていくという状況で、上水道については仙台市との関係もありますので、広域化を進めているという状況でございます。

○大村会長

そういうことですか。一緒に進めた方が手間はかからないと思うのですが、水道を仙台市と共同で調達されている部分で難しいということでしょうか。

○鈴木上水道部長

先程、会長がおっしゃられたように国からの補助金という部分がありますので、下水道を先行して進めているところであります。水道については、令和6年度に厚労省から国交省に業務が移管されたという流れにありまして、元々どちらかというところと広域化を進めていくことがベターだろうという考え方があるようです。水道については、塩竈市は仙台市とコラボで行っている部分がございますので、まずはそこで経費縮減等々を図っていくというのが第1ステップと考えております。一方で下水道については、包括委託により、レベル2.5までは上げさせていただきましたので、引き続きこの流れのもとでレベル3.5を喫緊の課題として目指していくという整理をしているところでございます。

○大村会長

CMをつけて3.5ということですね。わかりました。将来は色々なグルーピングが出来てくるかもしれませんが、まずは下水道の方からやってみましょうということですね。これは主に管路ということですが、あまり管路だけでウォーターPPPを行っているところはあまり多くない気がしますが、その辺の調査をされましたか？

○佐藤下水道課長

仙台市では一部管路だけで行っているというのを聞いたことがあります。（令和3年度から若林区を対象に「下水道管路施設等維持管理包括的民間委託」を実施）仙台市

規模になるとあまり大きすぎて全部含めるというよりは部分的に含めながら行っていくのかなと考えています。

○大村会長

仙台市では一部の管路でウォーターPPPを行っているところがあるのですね。わかりました。その辺も参考にされてできればいいと思います。

○佐々木康弘委員

関連して教えていただきたいのですが、全国的にウォーターPPPの検討を全市町村が実施されている中で、塩竈市では下水の管路とポンプ、漁業集落で検討されているということですが、いろいろなコンサルさんのお話を伺うと、処理場を持ってなくて管路だけというのは、引き受けるのはなかなか難しいというお話を聞いています。この18件中12件という3分の2の事業者の方から参加意欲があるという回答があったということで、非常に高いと思っております。漁業集落の処理場があるからだとか、どういった点が評価されてそういう意欲を示していただいたかと分析されているのかということと、その18事業者は、全国的に事業展開をされているのか地元の実業家の方なのかもお答えできる範囲で教えてください。

○佐藤下水道課長

塩竈市では今年度から包括的民間委託を進めているということで、まずは仕様書発注で行いましたので、その全ての内容を提示している状況がありますのでそれがまず一つ大きいのかなと考えています。企業については、県内は3社、県外が15社の18社という中身になっています。

○大村会長

興味を持っておられる会社が結構あることは良いことですよね。他にご意見ありませんか。このウォーターPPPに関しては、これからも議題に上がってくると思いますので今後もよろしくお願ひいたします。議題5まで終わりましたが、本日欠席の佐野委員の方からもご意見を頂いたようですので、事務局から佐野委員からの意見をお願ひできますか。

○並木次長兼業務課長

佐野副会長からは水道料金についてのご心配を頂きました。仙台市との共同浄水場の話が出ている中で料金体系は仙台市と一緒にしてしまうのかとお話を頂きましたが、浄水場は一体で運営するとしても水道事業全体の運営自体は別になるので料金は仙台市、塩竈市とで個別にやっていきますというお話をいたしました。また、料金収入が令和7年と8年でそんなに変わっていないことについて、メインのメーター口径13ミリの所が落ちている中で、大口径の料金収入が少し上がってきているということをご説明いたしました。また、建設改良工事などで地元業者への発注状況についてご

心配を頂きました。今のところ水道事業での発注については受けていただいておりますが、舗装工事などは受け手がなくて苦労している所もあります。企業さんの中でも鈴木委員の所のように代替わりが上手くいっている場合は、市の仕事も受けて貰えるのですが、そうではないと厳しいと感じています。また、今後ウォーターPPPが必須になる中で、先行して進める下水道だけではなく、上水道についても考えていかなければならないだろうとのお話を頂いております。

○大村会長

今の地元の企業がウォーターPPPにも積極的だと言う事で頑張ってもらいたいと思います。今回の委員の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

(4) その他

並木次長兼業務課長から、審議会終了後に意見等があった場合に提出していただく様式の説明と次回審議会（令和8年7月頃）の予定について説明を行った。

(5) 閉会

令和7年度第2回会議を閉会することについて、事務局から報告した。

(閉会 16:20)

10. 審議会終了後に委員から寄せられた主なご意見

【水道事業】

なし

【下水道事業】

なし